

在宅医療については、大学医学部においてすら学ぶことも少なく、在宅医等の養成は民間医療機関の個別の機会にゆだねられているのが現状である。ゆうの森はそういった人材育成にも積極的に取り組んでいる。

平成 24 年度からは東京大学医学部附属病院の研修協力施設として登録がなされ今年度は 10 人の研修医を受け入れている。また地域の医療大学校からの看護学生の受け入れもなされ、地域での在宅医療にかかわる人材養成機関としての役割も果たしている。

ゆうの森ではこうした在宅医療に取り組もうとされている方の見学、研修を広く受け入れています。実際の在宅医療の現場に同行頂いたり、在宅医療に取り組んできた「たんぼぼクリニック」のこれまでの経験をお話ししたり、さらには当院の独自のシステムや工夫を見ていただいたりして、在宅医療の様子やクリニック運営の状況を見ていただけます。

こうした研修が、既に在宅医療に取り組んでおられたり、これから在宅医療に関わろうと云う方の参考になればと考えております。

何を見たいか、何を知りたいか、何を学びたいか、それぞれの見学・研修ニーズに応じたプログラムを組み、見学・研修を実施します。

以下に、ゆうの森が提供する、在宅医療を知っていただくためのカリキュラムをご紹介します。

1. 全体ミーティング

まず、ゆうの森での研修や見学された方が最初におodorく「朝の全体ミーティング」をご紹介します。毎朝行われるこのミーティングは、院内 3 拠点を WEB でつないだ WEB 会議です。医師、看護師はもちろん事務職員に至るまで法人内の全てのスタッフが一堂に会し申し送りをしていきます。これは、患者さんの情報を共有する意味もありますが、「この人はこう言ったが、あの人はこう言った」などということがないよう治療方針や療養生活の方向性についてしっかりと議論し、方針を統一する役割を持っている重要な会議です。



【朝礼参加から】

朝は全職員で朝礼を実施。挨拶、スピーチ、情報共有、申送りをご覧いただきます。

2. 理念、制度研修

ゆうの森が提供している在宅医療の根幹にある理念、各種保険制度に関する知識、多職種の関わりなどについて座学形式での研修が行われます。

まずは、開業に至った経緯や熱い思い、在宅医療を現状や課題などを、ゆうの森 永井康徳理事長がお話しいたします。

その後、在宅医療を取り巻く医療保険や介護保険の制度研修、併設する訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、鍼灸マッサージ、居宅介護支援事業所や訪問介護事業所担当者より各職種の在宅医療への取り組みについてご説明いたします。



【在宅医療関連講義】

在宅医療について、あるいは患者の視点に立った医療のポイントについてお話しします。

3. 訪問診療同行

訪問診療同行は研修の中心となります。実際に在宅で療養されている患者さんのお宅に、医師、看護師とともに伺いし、日々の診療や看護がどのように行われているかを経験して頂きます。ほとんど全ての方が病院を受診した経験はありますが、在宅で療養した経験はないと思います。そんな中で、診療同行は正に新しい発見の連続です。“こんな医療処置もできるのか！”“点滴って最期の最期までするものだと思っていた”“自宅で痛みのコントロールもできるのか”“あえて「しない」選択枝もあるのか”など、それぞれ感じるものは様々です。



【訪問診療同行】

実際の訪問診療に同行いただき、その現場での、診察や患者、家族様への説明の様子等を見ていただきます。

4. 院内システム、各施設の見学

在宅医療を提供していくにあたり、開業以来進化を積み重ねてきた「疲弊しない体制」についても学んでいただけます。

毎日の全体ミーティングで使用するWEBを使った申し送りシステム、電子カルテ、スケジュール管理など当院における様々な仕組みをご説明いたします。



【院内見学・システム説明】

在宅医療を支えるシステムや工夫様々な仕組みについて、実際にご覧頂いたり、お話ししたりします。

5. 研修を終えて

研修を終えた実習生、見学者は口をそろえて「在宅医療を知ることができて本当に良い経験になりました」といって、それぞれの道へと進んでいきます。

「在宅医療」は数ある療養生活の一つでありながら、まだまだ広く浸透しているとは言えません。病気にかかってしまい、療養生活を送ることになった時、選択枝の一つとして住み慣れた自宅や地域で療養する“在宅医療”が提示されることがスタンダードとなるよう、私たちがすべきことは、まだまだたくさんあるのです。